

# 「京都市版 IHEAT」活動報告書（概要版）

## 第1章 「京都市版 IHEAT」応援体制立ち上げの経過

新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）について、京都市では、令和2年1月に初めての感染者が確認されて以降、新型コロナの感染拡大に対応するため、全庁での応援体制の構築、民間派遣職員の導入等による保健所の体制強化を図ってきました。

令和3年7月、保健所が行う積極的疫学調査等の業務について、より迅速かつ適切に実施できるよう、市内の看護系大学等に呼びかけを行い、賛同いただいた教職員等の専門職（保健師・看護師）による「京都市版 IHEAT」応援チーム（以下「応援チーム」という。）を結成しました。

※ IHEAT：感染症等の健康危機事案発生時に、地域における保健師等の専門職が保健所等の業務を支援する仕組み。

## 第2章 「京都市版 IHEAT」応援チームの取組

### 1 保健所業務（積極的疫学調査）の応援

応援チームには、新型コロナの第5波（令和3年8月～9月）、第6波（令和4年1月～3月）、第7波（令和4年7月～9月）の感染拡大期において保健所業務の応援を依頼し、延べ412人の方々に従事いただきました。

応援チームには、高い専門性を有する医療・看護の専門職として、高齢者や基礎疾患を有する方、妊婦の方など重症化リスクのあるの方々を中心とした積極的疫学調査を担当していただきました。

#### 【応援チームの従事における工夫点】

- ・ 体系的な情報共有の仕組みの整備

応援チーム全体のリーダー・副リーダー、各大学のチームリーダーを決定いただき、応援チーム内の情報伝達経路を整備しました。

- ・ 従事ごとの事前オリエンテーションの実施

日々変わりゆく新型コロナの対応について、毎回の IHEAT 活動前には、保健所職員からオリエンテーションを実施しました。

- ・ 活動場所の確保

応援チームの感染防止対策として、応援チーム専用の活動場所を確保しました。

### 2 啓発パンフレットの作成

応援チームの中で、第5波での積極的疫学調査を通じて、自宅療養者の実際の声を聞き、市民の皆様に対し、新型コロナに関するメッセージや情報等を伝える必要があるという意見が出ました。これを受け、令和3年12月に、応援チームの有志と京都市でワーキンググループを設置のうえ、令和4年3月、妊婦・小児、高齢者等の対象者ごとに、新型コロナへの不安に対する対応方法等についての啓発パンフレットを作成し、京都市情報館やSNS等を通じて発表しました。

## 第3章 「京都市版 IHEAT」研究チームの結成

### 1 「京都市版 IHEAT」研究チームとは

令和5年4月に IHEAT の仕組みが法定化され、恒久的な制度として位置づけられたことを受け、これまでの活動を振り返り、今後起こり得る健康危機事案に備え、今後の保健所応援体制を検討するため、京都市を事務局として、応援チームの有志13人（当時）による「京都市版 IHEAT」研究チーム（以下「研究チーム」という。）を結成しました。

### 2 「京都市版 IHEAT」シンポジウムの開催

令和5年8月30日、研究チームの活動の皮切りとして、シンポジウムを開催しました。シンポジウムを通じて、これまでの応援チームの活動を振り返ることで、「京都市版 IHEAT」の体制維持の必要性を再認識できました。

### 3 「京都市版 IHEAT」研究チームからの提言

研究チームでは、「京都市版 IHEAT」のこれまでの活動を振り返り、発展的持続化に向けた研究を通して課題や今後の方策を検討し、令和6年2月、次のとおり京都市への提言を報告いただきました。

#### (1) 研究テーマ

官学連携による京都市版 IHEAT の活動の報告－発展的持続可能化に向けた検討－

#### (2) 背景・目的

今後も起こり得る健康危機管理事案への即応体制として、「京都市版 IHEAT」活動の持続可能化及び全国の IHEAT 活動の展開に向けた示唆を得るため、「京都市版 IHEAT」による新型コロナ禍での活動を振り返り、活動の実態や課題を抽出し、今後の方策をまとめる。

#### (3) 方法・結果

応援チームで活動したメンバー16人にフォーカスグループインタビューを実施し、活動の実際と課題について分析した。(本研究は、京都看護大学倫理審査委員会(承認番号:202303号)の承認を得て実施した。)

その結果、「情報共有のあり方」に関する11カテゴリー、「受援・応援体制のあり方」に関する16カテゴリー、「活動メンバーの事前教育のあり方」に関する7カテゴリー、「IHEAT 活動の意義と今後に向けた平時からの活動の取組」に関する16カテゴリーが抽出された。これらの結果をもとに、活動の持続可能化に向けた京都市への提言をまとめた。

#### (4) 京都市への提言

ア 平時からの体制づくり

(京都市と教育機関の IHEAT の登録及び派遣に関する協定締結による持続可能化 等)

イ 連携強化

(研修会等を通じた保健所及び複数の教育機関の職員の定期的な交流 等)

ウ ガイドライン・マニュアル等の整備と周知

(教育機関に対する協力依頼の手順や依頼する業務についてのマニュアル整備 等)

エ 平時における研修・情報発信

(京都市と教育機関の共同による具体的な活動を想定した訓練の実施 等)

オ 事前準備教育

(最新の感染症対応の基本的なルールの習得やロールプレイ等の具体的な従事内容の演習 等)

カ 情報共有の工夫・システム化

(円滑な活動参加のための組織を超えた情報共有のシステム化の検討 等)

キ シフトの作成・共有

(シフト時間帯にメンバーが2人以上勤務して活動ができるようなシフトの工夫 等)

## 第4章 提言を踏まえた京都市の取組方針

京都市では、「京都市版 IHEAT」による保健所応援体制を恒久的なものとするよう、研究チームからの提言を踏まえ、以下のとおり取り組んでいきます。

### (1) 市内の看護系大学等との協定締結

応援チームの応援体制について、属人的なものではなく、組織として協力いただけるよう、看護系大学等との IHEAT 要員の登録及び派遣に関する協定締結を検討します。

### (2) 活動ガイドライン及び要綱の策定

今後も起こり得る健康危機事案発生時に速やかに活動を開始できるよう、派遣調整や活動の流れ等を記載した活動ガイドライン及び運用に関する要綱を策定します。

### (3) 登録者を対象とした研修会の実施

平時からの取組として、実践型訓練を含む年1回以上の研修会や IHEAT 活動の説明会を開催します。その他にも、京都市と応援チームが円滑に情報共有を行えるような情報共有のシステム化や、看護系大学等へ活動を周知する機会の確保等について、検討していきます。